

村をキャンバスに夢を描こう
ワクワクを発信します



飯館村にも文字通り、霜が降りた霜月。来たる冬に備え、皆様もスタッフドレスタイアへと交換されることと存じます。

19日に「全国若手町村長会」の総会が東京にて開催されました。9月号のコラムでもご紹介いたしましたが、今回は就任後2週間ほどの町長さん等も含めて30~40代の町村長が50人近く参集し、男女ともにここ数年で若手町長さんが増える中、持続可能な地域づくりという共通の課題はもちろん、それぞれの地域課題への真剣な向き合い方を本音で語り合う貴重な場となりました。教員だったじい父の姿勢は「人生常に研鑽」でしたが、私自身もこういった研鑽を積む場を今後とも大切にしていきたいと思っています。また同日開催の「全国町村長大会」には全国の926町村長とともに出席し、翌20日には「全国山村振興連盟」通常総会、「市町村長の災害対応力強化のための研修」にて、将来への布石となる新たな関係構築や研修につとめてまいりました。

そして、P18に掲載のクラフトビール「I T A T E R e C R A F T」は、ペールエールも仲間入りをして、11月末から道の駅までい館とゲストハウスCOCODAにて数量限定で販売されています。

実は私自身も、こういったそれぞれの主体が企画する「ワクワク」する情報は、インスタグラムなどのSNSで知ることが多いです。ご年配の方も是非とも、お子さん、お孫さんにSNSの使い方を聞いていただければ、ご自身の世界が想像以上に大きく広がると思いますので、お試しください。

また、今月も沢山のイベントに参加させていただきましたが、このコラムには書ききれないで、私個人のインスタグラムやフェイスブックのアカウントにて写真を交えて発信しております。よろしければ、そちらもご覧ください。

私が村長に就任させていただいた5年前から繰り返し申し上げてきましたが、飯館村は可能性の宝庫であり、多様な夢を描ける真っ白なキャンバスです。そして、夢を描くためには「村民の今を支える」取り組みが必要不可欠です。とりわけ村では、現在の物価高騰への緊急対策として、12月議会で審議いただきましたので、ぜひ皆様もこの大きなキャンバスにそれぞれの夢を描いてみてください。

■ひとのうごき

おくやみ

氏名	年齢	行政区
小林 年雄さん	74	小宮
菅野 タカさん	92	長泥
五百川 ミツ子さん	100	蕨平
佐藤 方子さん	91	大倉
林 良藏さん	69	臼石
飯畠 正道さん	90	小宮
佐藤 ハルヨさん	102	前田
松下 正信さん	79	宮内

ご冥福をお祈り申し上げます



ひとのうごき 令和7年11月1日現在

人口 今月（前月比）

- 男 2,226人（-9）
- 女 2,146人（-10）
- 計 4,372人（-19）

世帯数 1,788戸（-6）

10月1日～31日までの人口動態

- 転入 2人
- 転出 14人
- 出生 1人
- 死亡 8人

（住民基本台帳人口）

（10月16日から11月20日までに届け出のあったものを掲載）

*この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。



住まいのこれからについて
一緒に考えましょう！

空き家サポーター



菅野 茂さん
(関根・松塚)



空き家空き地バンク・住まいの利活用に関するご相談は
いいたての暮らしをつなぐステーション3ど
(いいたて移住サポートセンター)
伊丹沢字伊丹沢578番地1
☎0244-68-2850

毎月第3木曜日の午後
は意見交換会も。ご興味
ある方はぜひどうぞ。



空き家サポーターMessage 住み継ぐ村の宝

利用のない住まいの老朽化 進んでいませんか？

いいたて空き家サポーターの菅野茂です。空き家サポーターは、村の大切な資源でもある“住まい”的利活用を提案しています。家は住まない状態が続くと想像以上の早さで傷みます。換気不足による木材や壁紙のカビ、シロアリの発生、水道などの配管のサビ、動物の侵入被害やこれからの季節は凍結や結露による見えない場所のダメージなど、修繕・修復に多額の費用と時間がかかり、放置すると安全性や価値が下がる原因になります。思い出多い住まいを守り、優良資産として残すためにも利用の少ない家の相談をしてみませんか？詳しくは空き家サポーターまたは3どまで。

皆さんが広報委員！ いいたて PHOTO リレー

月ごとのテーマで写真を募集、エピソードと共に紹介します。



「朝の飯館村を巡って、いろいろな景色を撮影しました」。渡部功さんに提供いただいたたくさんの写真から、今回は「はやま湖の雲海」と「二枚橋の早朝」を紹介します。



「はやま湖の雲海」は、前日の夜と早朝の寒暖差が大きいこと、十分な湿度、そして風が弱いことなどの条件が重なって初めて見られる景色だそうです。「これを撮影するためには何日も通わないとだめですからね」と渡部さん。もう一枚の「二枚橋の早朝」については「稻わらが田んぼに並んでいるこの風景はこの時期この地域ならではの“なつかしい風景”だと感じます。冬支度の始まりを感じますね」と話していました。朝日が照らす紅葉の山も見事です。冬のはじめの村ならではの風景写真を掲載させていただきました。

1月号
12/10締切

例え…「雪」「クリスマス」「星空」「凍み大根」をテーマに。

2月号
1/16締切

例え…「新年」「成人式」「七草がゆ」「梅」をテーマに。

■写真様式 データ、現物を問いません。

■提出方法 電話で写真の詳細をお聞きした後、相談させていただきます。

■選考 応募多数の場合は選考します。

■報償 1掲載につき1,500円。

問 村づくり推進課企画定住係（広報担当：巻野）☎0244-42-1613